

令和 4 年 6 月 23 日現在

機関番号：34509

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2021

課題番号：17K02914

研究課題名（和文）英語の音韻体系を意識させる理論的・自律的発音学習の効果実証研究

研究課題名（英文）Empirical research on the effects of theoretical and autonomous pronunciation learning for enhancing awareness of the English phonological system

研究代表者

中西 のりこ（Nakanishi, Noriko）

神戸学院大学・グローバル・コミュニケーション学部・教授

研究者番号：80512285

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、英語の発音記号・リズム・音声変化の理論的な規則を学習者にとって馴染み深いものにすることによって、発話における発音と流暢さの向上を目指すものであった。英語の音韻情報を視覚化し明示的に示すために開発した数種類のwebシステムを用いて、学習者が英語の音韻体系を意識し自律的に発音学習に取り組むことを促した。その指導実践の効果を検証するため定期的にスピーキングテストを実施し、その結果を研究発表・学術論文・著書などで報告した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

入力された英文を発音記号に変換し各音素の発音の仕方を提示するPhoneme Counter、学習者の英語発話を自動音声認識しどのように聞こえるかを客観的に把握できるSpeech Saver、国際語としての英語発音のモデルとして英米語変種以外にも触れることができるSounds of Englishesのように、英語音声を目視的に提示するwebシステムを構築し一般公開した。これらのシステムを用いた授業実践ではスピーキングテストスコアが有意に上昇しただけでなく、学習者による英語音声に対する意識の向上が見られた。

研究成果の概要（英文）：This study aimed to improve English learners' pronunciation and fluency by familiarizing English phonetic symbols, rhythms, and features of connected speech. The learners were encouraged to use web systems that were developed to visualize English phonetic information, and they engaged in pronunciation learning autonomously. Speaking tests were conducted regularly to examine the effects of the teaching practice, and the results were reported in research presentations, academic papers, and books.

研究分野：英語音声学

キーワード：英語音声学 ICTを用いた教育実践 自律的学習 webプログラム開発

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

日本の英語教育現場において、文字言語としての英語は詳細な文法など理論的な指導が行われている一方、音声言語としての英語はモデル音声を聞く・復唱する、という感覚的な指導に偏りがちである。しかし日英語の音韻体系の根本的な違いを系統だてて理解しないまま、リスニング力・スピーキング力が効果的に身に付くとは考えにくく、このことが学習者の4技能の熟達度のアンバランスさの一因となっている。

このようなアンバランスさを解消するため、英語発音のしくみを音声言語の「文法」として指導し、音素の種類や英語らしいリズム、連結・脱落・同化のような音声変化を学習者が理論的に認識できるよう手助けをする必要がある。英語の基本的な音韻体系を理解していれば、自由発話をする際にも応用でき、モデル音声への過度な依存から解放される。

そこで申請者は学習者の自律的な音声学習を促す試みの第一歩として、発音記号が読める学習者を育成するための授業実践に取り組んできた。中西・阪上・山本(2015)、中西(2015d)では、非英語専攻の学生を対象とした英語授業で発音記号を網羅的に扱ったところ、学習意欲と自信につながったという結果が示された。また、英語を専攻する学生対象の「英語音声学」の授業で英語の音韻の仕組みと発音記号を秩序立てて指導し、自分の英語発音を分析する課題を出したところ、教員が指摘しなくても「摩擦音の持続時間が短かった」「舌の位置がずれていた」というように、学習者自ら、英語発音の癖を客観的に描写できるようになった(中西, 2016d)。このことから、英語の音韻のしくみを理解した上で、視覚化された音韻情報を確認することができれば、学習意欲や自信、振り返りの力につながり、自律的な学習が進むと考えた。

研究開始までの一連の研究では、既成の英語教科書を音声練習素材として用い一斉指導の形を取ったが、本研究では、学習者が個別に準備した英文スクリプトも練習素材とするため、すでに平成28年夏にweb上で一般公開を開始していた「音素カウンター Ver.1」をさらに充実させ、リズムや音声変化の面でも自律学習を促すため、このシステムの機能を拡張することとした。

2. 研究の目的

本研究の目的は、発音記号などで視覚化された英語の音韻情報を認識することが、学習者の英語発話における発音と流暢さの向上に寄与するという仮説を検証することであった。日英語の音韻体系の違いを理解し、記号を見れば発音できる学習者を育成することができれば、モデル音声に過度に依存する必要がなくなるため、学習者による自律的な音声学習が可能となる。そのため、英語の発音記号・リズム・音声変化を学習者にとってなじみ深いものにするを目的とした。

3. 研究の方法

初年度は、すでに一般公開していたPhoneme Counterの機能を充実させ、2年目には英米発音の表記法を体系的にまとめるための基礎研究、3年目には音声入力された英語発話を自動的に録音・音声認識し文字列で提示するSpeech Saverの開発およびこのシステムを用いた授業実践の効果測定、4年目には世界の様々な英語発音を聞き比べるwebサイトSounds of Englishesのデータ収集・分析・一般公開を行い、最終年度に当たる5年目には、Sounds of Englishesに蓄積されたデータを学習者が分析するためのシステムとして開発したWEplayerを利用した授業実践を実施した。これらのシステムを用いた発音指導実践の効果は外部スピーキングテスト(Versant)によって測定し、長期的な視野から検証し、適宜、実践報告や学術論文にて報告した。さらに、シャドーイングが学習者のリスニング力および英語発音に及ぼす効果について検証した。

4. 研究成果

(1) 理論的枠組みについての基礎研究

学習者に英語の音韻体系を意識させ、自律的な発音学習を促すため、英語音声学全般(有本・河内山・佐伯・中西・山本, 2021)、英米発音(井上・赤野(編)2019; 中西, 2020)、日本語の音韻体系との違い(中西, 2022)、イントネーション(Nakanishi & Haneo, 2021)、音節構造および連続音声(中西・山本, 2022)、シャドーイング(門田・中西, 2017)において、理論的枠組みを整理し、学術論文や著書としてまとめた。

(2) システム開発

Phoneme Counter, Speech Saver, Sounds of Englishes の概要を図 1 に示す。これらの開発プロセス、および、システムを利用した指導実践の効果については、Nakanishi (2018; 2019a; 2019b; 2020a; 2020b) において報告を行った。

図 1.

Phoneme Counter



Speech Saver



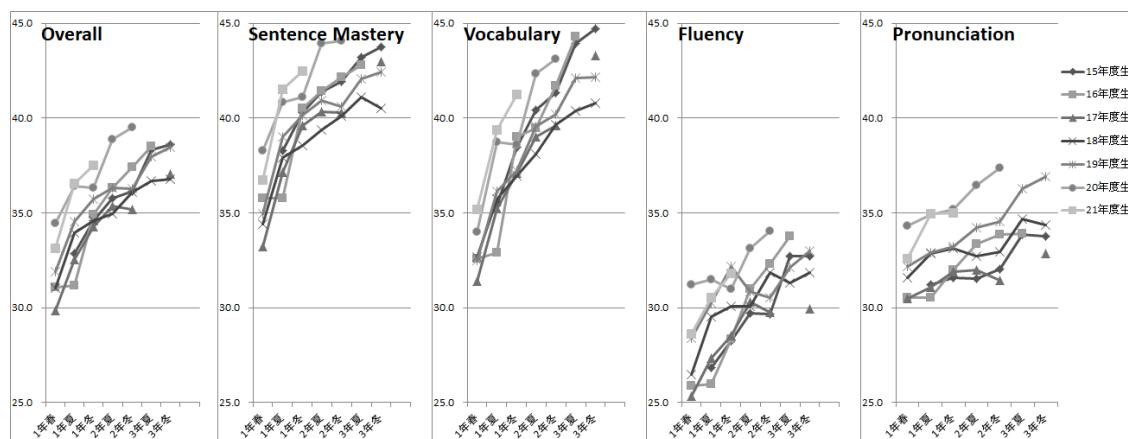
Sounds of Englishes



(3) 指導実践の効果

各システムを利用した指導実践とその効果については Phoneme Counter (中西, 2017; 2018a; 2019)、Speech Saver (Nakanishi, Tam, Ebihara, 2020; 中西, 2018b; 2018c; 中西・高口, 2022; Nakanishi, 2021)、Sounds of Englishes (Nakanishi, 2021)、学習者の総合的な英語発音の向上 (中西・タム・海老原, 2019; 中西・タム・海老原・マスティー・大竹・藤村, 2021; 中西・蘭野, 2022) において報告を行った。さらに、Nakanishi, Minematsu, & Zhu (2022); 中西・峯松・梶原 (in press) において、シャドーイングを用いた自律的学習の効果について論じた。図 2 に、7 年間にわたり定期的な実施した Versant スピーキングテスト結果の入学年度別平均点を項目ごとに示す。特に、本研究開始前の 2015 年、2016 年度入学生では低迷していた Fluency (流暢さ) および Pronunciation (発音) の得点が、2017 年度入学生以降では有意に向上したことが示された。

図 2. Versant スピーキングテスト結果の推移 (入学年度別 $n = 70 \sim 124$)



< 引用文献 >

Matsuda, S., Imura, M., Nakanishi, N., & Herke, M. (2021). The Effect of Oral Reading Practice Using L1 Leveled Readers on the Speaking Ability of Science Majors. *The Setsudai Review of Humanities and Social Sciences* 28, 1–28.

Nakanishi, N. (2018). Development of Phoneme Counter: Open Software for Calculating Phoneme Counts in English Texts. *Language Education & Technology* 55, 199–216.

Nakanishi, N. (2019a). Sounds of Englishes: An interactive pronunciation website for varieties of English. The 17th Asia TEFL International Conference and The 6th FLLT International Conference. (Bangkok, Thailand). June 29, 2019.

Nakanishi, N. (2019b). Toward EIL Verbal Communication: A website for getting familiar with foreign-accented Englishes. LINGUASCAPE 2019. (Cambridge University Press, UK). July 10, 2019.

Nakanishi, N. (2020a). Experiencing World Englishes at Home. JALT 2020 (Online). November 23, 2020.

Nakanishi, N. (2020b). Sounds of Englishes: English pronunciation database. Acoustical

- Society of Japan (ASJ) The 2020 Fall Meeting. (Online). September 10, 2020.
- Nakanishi, N. (2021). Process, Outcome, and Assessment of Project-Based Learning. The 3rd JACET Summer(47th) and English Education(8th) Joint Seminar (Online). March 8, 2021.
- Nakanishi, N., & Haneo, M. (2021). Is Rising Intonation the Default Pattern in Yes-No Questions? The Cases of British and American English. *Studies in English Language Teaching* 44, 61–80.
- Nakanishi, N., Minematsu, N., & Zhu, C. (2022). Shadowability of English learners' utterances: Comparison with transcripts generated by automatic speech recognition. *Journal of Global Communication Studies* 7, 29–43.
- Nakanishi, N., Tam, S. Y., Ebihara, Y. (2020). Spotting English Pronunciation Errors: Comparison Among Teachers and with Automatic Speech Recognition. *LET Kansai Chapter Collected Papers* 18, 125–146.
- 井上永幸・赤野一郎 (編) (2019). 『ウィズダム英和辞典 第4版』 発音担当. 三省堂.
- 仁科恭徳・中西のりこ・表谷純子・倉増泰弘・金井典子・里井久輝 (著), 野口ジュディー・東淳一 (校閲) (2018). 『ホスピタリティ・コミュニケーション—実践形式で学ぶおもてなし英語』. 三修社.
- 中西のりこ (2017). 「音素カウンター」を用いた授業実践. JASELE 第43回島根大会. (島根大学). 2017年8月20日.
- 中西のりこ (2018a). 「合成音声 (Text-to-Speech)・音声認識 (Speech-to-Text) ソフトの英語教育への応用:「音素カウンター」×音声認識」. ATEM 西日本支部大会. (大阪工業大学). 2018年3月3日.
- 中西のりこ (2018b). 「日本語母語話者の英語発音の特徴: 音声認識アプリを用いた分析」. KELES 第23回研究大会. (関西国際大学). 2018年6月9日.
- 中西のりこ (2018c). 音声認識アプリを用いた自律的発音学習. 教育開発センタージャーナル 第9号, 25–37. 神戸学院大学.
- 中西のりこ (2019). 「音素カウンター」音声認識入力機能を用いた英語発音練習の効果」. JASELE 第45回弘前研究大会. (弘前大学). 2019年8月18日.
- 中西のりこ (2020). 「現代版 Longman Pronunciation Dictionary Pronunciation Preference Polls の試み」日本実践英語音声学会関西支部 第1回研究大会 (大阪成蹊大学). 2020年1月25日.
- 中西のりこ (2022). 『カタカナ語からはじめる英語の発音』. ひつじ書房.
- 中西のりこ・タムショウイン・海老原由貴 (2019). 「ICT 教室の特性と音声認識ソフトを活かした英語リスニング・スピーキング活動の可視化」. 私立大学情報教育協会 2019年度 ICT 利用による教育改善研究発表会. (東京理科大学). 2019年8月9日.
- 中西のりこ・タムショウイン・海老原由貴・マスティエニコラス・大竹翔子・藤村敬次 (2021). 「グローバル・コミュニケーション学部5年間の授業成果と今後の課題—複数授業科目の連携・ICT 活用・学習者目線のシラバス構築に向けて—」. 教育開発センタージャーナル 第11号, 13–28. 神戸学院大学.
- 中西のりこ・高口朋也 (2022). 日本語母語話者の英語弱母音の発音: 自動音声認識を用いた分析. 教職教育センタージャーナル 第8号, 1–11. 神戸学院大学.
- 中西のりこ・山本晃司 (2022). 「第5章 音節、音連鎖、連続音声」. 長瀬慶来教授 古希記念出版刊行. 委員会編 『英語音声学・音韻論—理論と実践』 (pp.84 - 102).
- 中西のりこ・仁科恭徳 (編著) (2018). 『グローバル・コミュニケーション学入門』. 三省堂.
- 中西のりこ・峯松信明・榎原卓弥 (in press). 未習パッセージを用いた英語シャドーイングの効果—リスニング力およびスピーキング力との関係—. 外国語教育メディア学会機関誌 59巻.
- 中西のりこ・蘭野諒太 (2022). 音声変化を伴う英語発話のディクテーション: 聞く力・話す力との関係および聞き取りにくさの要因. 関西英語教育学会紀要 第45号, 1–20.
- 門田修平・中西のりこ (2017). 「聞く力」「話す力」を鍛える 100万語シャドーイング」『多聴多読マガジン』. コスモピア. 2017年6月号 (Vol. 62), pp. 9–32.
- 有本純・河内山真理・佐伯林規江・中西のりこ・山本誠子 (著) (2021). 『英語発音の指導—基礎知識からわかりやすい指導法・使いやすい矯正方法まで』. 三修社.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計16件（うち査読付論文 13件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 11件）

1. 著者名 中西 のりこ・羽尾 将司	4. 巻 44
2. 論文標題 Is Rising Intonation the Default Pattern in Yes-No Questions?	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 英語教育研究	6. 最初と最後の頁 61～80
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18989/seit.44.0_61	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 中西のりこ・タムショウイン・海老原由貴・マスティーニコラス・大竹翔子・藤村敬次.	4. 巻 第11号
2. 論文標題 グローバル・コミュニケーション学部5年間の授業成果と今後の課題 複数授業科目の連携・ICT 活用・学習者目線のシラバス構築に向けて	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 教育開発センタージャーナル	6. 最初と最後の頁 13-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Matsuda, S., Imura, M., Nakanishi, N., & Herke, M.	4. 巻 28
2. 論文標題 The Effect of Oral Reading Practice Using L1 Leveled Readers on the Speaking Ability of Science Majors	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Setsudai Review of Humanities and Social Sciences	6. 最初と最後の頁 1-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Nakanishi, N., Tam, S. Y., Ebihara, Y.	4. 巻 Vol. 18,
2. 論文標題 Spotting English Pronunciation Errors: Comparison Among Teachers and with Automatic Speech Recognition.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 LET Kansai Chapter Collected Papers.	6. 最初と最後の頁 pp. 125-146.
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 中西のりこ	4. 巻 0
2. 論文標題 日本語母語話者が持つ音象徴の感覚－架空キャラクターのネーミング調査から－	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『言語分析のフロンティア』	6. 最初と最後の頁 pp.245-256.
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中西のりこ	4. 巻 89号
2. 論文標題 進路指導の際に解いておきたい英語の誤解	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Chart Network	6. 最初と最後の頁 pp. 1-4.
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中西のりこ	4. 巻 第9号
2. 論文標題 音声認識アプリを用いた自律的発音学習	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 教育開発センタージャーナル	6. 最初と最後の頁 25-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nakanishi, N.	4. 巻 55
2. 論文標題 Development of Phoneme Counter: Open Software for Calculating Phoneme Counts in English Texts	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Language Education & Technology	6. 最初と最後の頁 199-216
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Matuda, S., Imura, M., & Nakanishi, N.	4. 巻 -
2. 論文標題 Encouraging L2 Science Majors to Talk Using L1 Readers	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Extensive Reading World Congress Proceedings	6. 最初と最後の頁 145-154
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Torbert, A. C., & Nakanishi, N.	4. 巻 58
2. 論文標題 Negotiating the Challenges of Studying Abroad	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Research Institute	6. 最初と最後の頁 175-191
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中西のりこ	4. 巻 1月号
2. 論文標題 グローバル・コミュニケーションのための英語4技能と音声指導	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 英語教育年	6. 最初と最後の頁 66-67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中西のりこ・高口朋也	4. 巻 8
2. 論文標題 日本語母語話者の英語弱母音の発音：自動音声認識を用いた分析	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 神戸学院大学教職教育センタージャーナル	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中西のりこ・蘭野諒太	4. 巻 45
2. 論文標題 音声変化を伴う英語発話のディクテーション：聞く力・話す力との関係および聞き取りにくさの要因	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 関西英語教育学会紀要	6. 最初と最後の頁 1-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nakanishi, N., Minematsu, N., & Zhu, C.	4. 巻 7
2. 論文標題 Shadowability of English learners' utterances: Comparison with transcripts generated by automatic speech recognition	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Global Communication Studies	6. 最初と最後の頁 29-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中西のりこ・峯松信明・榎原卓弥	4. 巻 59
2. 論文標題 未習パッケージを用いた英語シャドーイングの効果 リスニング力およびスピーキング力との関係	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 外国語教育メディア学会機関誌	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中西のりこ・山本晃司	4. 巻 -
2. 論文標題 第5章 音節、音連鎖、連続音声	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 長瀬慶來教授 古希記念出版刊行委員会編 『英語音声学・音韻論 理論と実践』	6. 最初と最後の頁 84-102
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計25件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 8件）

1. 発表者名 Zhu, C, Hakoda, R., Saito, D., Minematsu, N., & Nakanishi, N.
2. 発表標題 Intelligibility annotation of L2 speech based on listeners' shadowing and script-shadowing
3. 学会等名 The 2021 Spring meeting of the Acoustical Society of Japan (Online)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Nakanishi, N.
2. 発表標題 Process, Outcome, and Assessment of Project-Based Learning
3. 学会等名 The 3rd JACET Summer(47th) and English Education(8th) Joint Seminar (Online)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 峯松信明・朱伝博・中西のりこ
2. 発表標題 逆シャドーイングに基づく学習者音声に対する瞬時的明瞭度（了解度）アノテーション
3. 学会等名 言語教育エキスポ2021（オンライン開催）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Nakanishi, N.
2. 発表標題 Experiencing World Englishes at Home
3. 学会等名 JALT 2020 (Online)
4. 発表年 2020年

1 . 発表者名 Lin, Z., Takashima, R., Saito, D., Minematsu, N., & Nakanishi, N.
2 . 発表標題 Shadowability Annotation with Fine Granularity on L2 Utterances and Its Improvement with Native Listeners' Script-shadowing
3 . 学会等名 INTERSPEECH 2020 (Online, Shanghai) (国際学会)
4 . 発表年 2020年

1 . 発表者名 Zhu, C., Lin, Z., Minematsu, N., & Nakanishi, N.
2 . 発表標題 Analyses on Instantaneous Perception of Japanese English by Listeners with Various Language Profiles
3 . 学会等名 The 34th General Meeting of Phonetic Society of Japan. (Online)
4 . 発表年 2020年

1 . 発表者名 Zhu, C., Takashima, R., Ando, S., Lin, Z, Saito, D., Minematsu, N. & Nakanishi, N.
2 . 発表標題 Shadowability-based Analysis of Behaviors of Listeners with Diverse Language Backgrounds when Listening to Japanese English Utterances
3 . 学会等名 The 2020 Fall meeting of the Acoustical Society of Japan (Online)
4 . 発表年 2020年

1 . 発表者名 Lin, Z., Takashima, R., Saito, D., Minematsu, N., & Nakanishi, N.
2 . 発表標題 Frame-based shadowability annotation using shadowing and script-shadowing L2 utterances
3 . 学会等名 The 2020 Fall meeting of the Acoustical Society of Japan (Online)
4 . 発表年 2020年

1. 発表者名 Nakanishi, N.
2. 発表標題 Sounds of Englishes: English pronunciation database
3. 学会等名 The 2020 Fall meeting of the Acoustical Society of Japan (Online)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中西のりこ
2. 発表標題 現代版Longman Pronunciation Dictionary Pronunciation Preference Polls の試み
3. 学会等名 日本実践英語音声学会関西支部 第1回研究大会 (大阪成蹊大学)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中西のりこ
2. 発表標題 「音素カウンター」音声認識入力機能を用いた英語発音練習の効果
3. 学会等名 JASELE 第45回弘前研究大会. (弘前大学)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中西のりこ・タムショウイン・海老原由貴
2. 発表標題 ICT教室の特性と音声認識ソフトを活かした 英語リスニング・スピーキング活動の可視化
3. 学会等名 私立大学情報教育協会 2019年度 ICT利用による教育改善研究発表会. (東京理科大学)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Nakanishi, N.
2. 発表標題 Toward EIL Verbal Communication: A website for getting familiar with foreign-accented Englishes.
3. 学会等名 LINGUASCAPE 2019. (Cambridge University Press, UK).
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Nakanishi, N.
2. 発表標題 Sounds of Englishes: An interactive pronunciation website for varieties of English.
3. 学会等名 Asia TEFL 2019. (Bangkok, Thailand) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Arimoto, J., Kochiyama, M., & Nakanishi, N.
2. 発表標題 Teaching Pronunciation Guidelines for EIL Teachers. [Poster presentation]
3. 学会等名 Asia TEFL 2019. (Bangkok, Thailand) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中西のりこ
2. 発表標題 日本語母語話者の英語発音の特徴 音声認識アプリを用いた分析
3. 学会等名 関西英語教育学会 第23回研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Matsuda, S., Imura, M., Nakanishi, N., & Herke, M.
2. 発表標題 The Effect of Oral Reading Practice Using L1 Leveled Readers on the Speaking Ability of Science Majors
3. 学会等名 JACET Kansai Chapter 2018 Conference
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Nakanishi, N.
2. 発表標題 Development of Phoneme Counter: Progress toward version 5.0
3. 学会等名 The ELL Seminar and Talks Series (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Matsuda, S., Imura, M., Nakanishi, N.
2. 発表標題 Repetitive input and output practice using children's books: Will reading practice transform speaking ability?
3. 学会等名 Cambodia TESOL (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中西のりこ
2. 発表標題 合成音声 (Text-to-Speech)・音声認識 (Speech-to-Text) ソフトの英語教育への応用: 「音素カウンター」×音声認識
3. 学会等名 ATEM 西日本支部大会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Matsuda, S., Nakanishi, N., Torii, Y., Uozumi, K., & Yoshimura, M.
2. 発表標題 Progress Test: A critical analysis by early adopters in Japan.
3. 学会等名 38th Thailand TESOL International Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Masuda, S., Imura, M., Nakanishi, N.
2. 発表標題 Encouraging L2 Science Majors to Talk Using L1 Readers.
3. 学会等名 The 4th World Congress on Extensive Reading (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中西のりこ
2. 発表標題 「音素カウンター」を用いた授業実践
3. 学会等名 LET関西2017年度春季大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中西のりこ
2. 発表標題 日本語母語話者が持つ音象徴の感覚：架空キャラクターのネーミング調査から
3. 学会等名 JASELE第43回島根大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Nakanishi, N., Torbert, A. C., Tam, S., & Kikukawa, Y.
2. 発表標題 The challenges to overcoming the "inward tendencies" of Japanese through study abroad programs.
3. 学会等名 Global Negotiation Conference (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計9件

1. 著者名 中西のりこ、中島圭介、コスモピア編集部	4. 発行年 2021年
2. 出版社 コスモピア	5. 総ページ数 172
3. 書名 なま声と収録音声を比較！危機時のリーダーの英語	

1. 著者名 有本 純、河内山 真理、佐伯 林規江、中西 のりこ、山本 誠子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 三修社	5. 総ページ数 128
3. 書名 英語発音の指導 基礎知識からわかりやすい指導法・使いやすい矯正方法まで	

1. 著者名 土屋知洋・中田達也（編著）、中川右也・中西のりこ・仁科恭徳（著）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 三修社	5. 総ページ数 136
3. 書名 TOEIC L&R TESTのための基礎演習 - BASIC TEXTBOOK FOR THE TOEIC L&R TEST	

1. 著者名 井上 永幸、赤野 一郎	4. 発行年 2018年
2. 出版社 三省堂	5. 総ページ数 2336
3. 書名 ウィズダム英和辞典 第4版 (発音担当)	

1. 著者名 中西 のりこ・仁科 恭徳	4. 発行年 2018年
2. 出版社 三省堂	5. 総ページ数 176
3. 書名 グローバル・コミュニケーション学入門	

1. 著者名 仁科恭徳・中西のりこ・表谷純子・倉増泰弘・金井典子・里井久輝 (著)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 三修社	5. 総ページ数 88
3. 書名 ホスピタリティ・コミュニケーション - 実践形式で学ぶおもてなし英語	

1. 著者名 安河内哲也、土屋知洋、中田達也、中西のりこ、仁科恭徳、中川右也	4. 発行年 2017年
2. 出版社 三修社	5. 総ページ数 406
3. 書名 TOEIC L&R TEST ベーシックアプローチ	

1. 著者名 中西のりこ	4. 発行年 2017年
2. 出版社 金星堂	5. 総ページ数 12
3. 書名 「音象徴の普遍性と言語個性：英語・中国語・日本語母語話者の比較」. 野口ジュディー・津多江先生退職・古稀記念論文集編集委員会（編）. 『応用言語学の最前線 言語教育の現在と未来』	

1. 著者名 中西 のりこ	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ひつじ書房	5. 総ページ数 168
3. 書名 カタカナ語からはじめる英語の発音	

〔出願〕 計2件

産業財産権の名称 外国語音声の知覚と調音に関する多角的評価のための循環型シャドーイング教材	発明者 峯松信明・榎原卓 弥・朱伝博・箱田 峻・西村多寿子・中	権利者 国立大学法人東 京大学・学校法 人神戸学院
産業財産権の種類、番号 特許、63/235,683	出願年 2021年	国内・外国の別 外国

産業財産権の名称 音声に対する瞬時的了解度の系列推定技術	発明者 峯松信明・朱伝博・ 中西のりこ	権利者 国立大学法人東 京大学・学校法 人神戸学院
産業財産権の種類、番号 特許、63/235,243	出願年 2021年	国内・外国の別 外国

〔取得〕 計0件

〔その他〕

<p>英文音素分析webシステム「音素カウンター」の開発 https://www.kobegakuin.ac.jp/files/facility/rsc/intellectual/seeds/seeds2021_35.pdf 世界の英語変種を聞き比べる「Sounds of Englishes」の開発 https://www.kobegakuin.ac.jp/files/facility/rsc/intellectual/seeds/seeds2021_36.pdf 音声言語を視覚化する「Speech Saver」の開発 https://www.kobegakuin.ac.jp/files/facility/rsc/intellectual/seeds/seeds2021_37.pdf 研究業績 https://nakanishi.kobegakuin-gc.jp/</p>
--

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------